
ごあいさつ



備前市長
吉村 武司

時代は平成から令和へと変わり、新しい備前市が発足してから16年が経過しました。

この間、市立3病院や認定こども園の整備、「備前♡日生大橋」の開通、新庁舎竣工のほか、医療費や保育料の無償化等による子育て世帯の負担軽減、フューチャークラスルームをはじめとするICTを活用した教育環境の充実、特別史跡「旧閑谷学校」を含む教育遺産群と「備前焼」を含む日本六古窯の日本遺産認定、圏域内の活性化や活力ある社会経済の維持を目的とした東備西播定住自立圏形成協定及び岡山連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結等、住み続けたいと思えるまちづくりを目指した様々な取組を進めてまいりました。

一方、人口減少と少子高齢化の進展、社会全体のデジタル化、安全・安心に対する意識の高まり、脱炭素社会への転換、持続可能な開発目標（SDGs）の普及等、本市を取り巻く環境は大きく変容しています。

特に新型コロナウイルス感染症に対する新しい生活様式への変化にどう向き合っていくかが問われている時代でもあります。

このような状況に対応し、市民の幸せを目指し、希望ある、未来に期待の持てるまちづくりを進めていく指針となるのが「第3次備前市総合計画」です。

この計画は、「豊かな“自然と文化”、魅力あふれる“まち”、活気ある“ひと”それが備前」を将来像に掲げ、定住人口を増やすことで人口減少・少子高齢化を克服する道筋を描いたものであり、人口減少対策と地域活性化を図る取組方針である「第2期備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体的に策定いたしました。

今後は、多様化・複雑化する課題や市民ニーズ、変動する社会経済情勢にスピード感を持って対応するため、「子育て支援の充実」、「教育のまち備前の発展」、「持続可能な雇用の創出・安定」、「住宅施策の推進」の4本柱を軸とした本計画に基づく施策を着実に推進し、将来像の実現に取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、熱心にご議論いただいた備前市振興計画審議会の委員の皆さまをはじめ、市民会議、高校生会議、市民アンケート、中学生・高校生アンケート、パブリックコメントなどを通じて貴重なご意見をいただいた皆さま、市議会ならびに関係各位に心からお礼を申し上げます。

令和3年9月